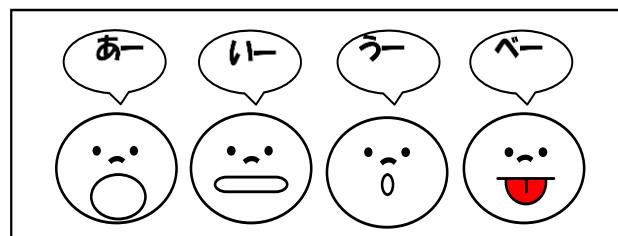


ことば遊び ～口を鍛えよう！～

乳歯列完成後（3歳以降）の安静時に、口が常に開いている状態はみられませんか？
 このような「口唇閉鎖不全」は、「安静時に上下の口唇が接触していない状態」を言います。
 そのため、上の前歯が少し見えるくらいでもあてはまります。原因は鼻閉による口呼吸や、吸指癖などの口腔習癖、口腔周囲筋の筋力不足など様々です。食べる・話す・呼吸するなどの口腔機能の発達には適正な口唇閉鎖力が必要です。まずはかかりつけの歯科医師にご相談ください。
 またここでは自宅で簡単に行える口の体操を紹介します。道具や指を使わないので取り組みやすいです。保護者の方も一緒に行ってみてください。

☆あいうべ体操

- ・「あ」口を大きく開けて
- ・「い」口を横にひいて
- ・「う」タコのように唇を尖らせて
- ・「べ」舌を出して、舌先を尖らせることを意識しましょう。



☆エアーうがい（空気で練習）

- ①口のなかに空気をいっぱい入れて、ふくらませます。
- ②口をしっかりと閉じて、空気を右・左・上・下に動かします。

～乳幼児期の育ちを考える～

『非認知能力を育てるとは？』

認知能力は、読み書きや計算など学習に直結する力ですが、非認知能力が育つ事によって成果が現れると考えられています。

できた、できなかったという結果ではなく、取り組む姿勢を大事にしていきます。

おもしろそう→やってみよう→むずかしい→どうしたら出来るか考える、もうちょっと頑張る→(できた)→面白い→もっとやる、工夫してみる

この流れの中に、他者の存在が入ってきます。大人に認めてもらう、褒めてもらう事で、うれしさ、喜びと次への意欲につながります。

年長になると仲間意識が育ち、子ども同士で励まし合い、教え合い、支え合っていきます。

そのためには、No.2にも書いたように自分の存在意義や自己肯定感の育ちがちゃんと根っこにある事が大切なのです。

失敗が許されない世界になっていませんか？
 大人が結果を求め過ぎていませんか？

保育所、幼稚園でも取り組む前から、やりたくない
 と消極的な子どもがいます。まだ4、5年しか生きておらず、出来ない事知らない事だらけが当たり前なのに、出来ない自分を先に想像するって悲しいですね。

乳幼児期の子どもの遊び（自己表現）に正解や失敗はないはずですが、大人がその基準を決めているのを子ども達は敏感に感じ取っているのです。適したサポート方法を考えていきましょう。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます。
 夢と希望のもてる たからっこを
 応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター
 〒665-8665 宝塚市東洋町1-1
 電話 0797-71-1141(市役所)
 0797-77-2132(直通)
 FAX 0797-71-1891
 E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。